

令和7年度 第1回伊勢市路上喫煙対策審議会議事要旨

●日時：令和8年2月13日（金）10時～11時30分

●場所：伊勢市役所本庁舎東館5-3会議室

●委員 筒井 琢磨（学識経験者：皇學館大学）
澤村 哲弥（関係団体：伊勢商工会議所）
中村 佳子（関係団体：伊勢市観光協会）
中川 隆司（関係行政機関：三重県南勢志摩地域活性化局）

【欠席】

奥田 宗吾（関係団体：伊勢市商店街連合会）
本村 鏡一（公共的団体：伊勢市総連合自治会）

●オブザーバー 大波多 一仁、西塚 昌平（日本たばこ産業（株）三重支社）

●事務局

大西 隆（環境生活部長）、林 歩（ごみ減量課長）、
中井 正典（ごみ減量課主幹）、潮田 剛（ごみ減量推進係職員）、
坂口 ちよ子（ごみ減量推進係）、東 良二（観光振興課長）、
深川 和司（都市計画課主幹）、杉浦 公子（健康課主幹）

●報告及び意見交換

事項書に記載の報告等に関する事務局からの説明に対し、以下のとおり質疑応答及び意見交換が行われた。

○路上喫煙禁止区域の現状と課題について

（委員1）	資料3の店舗等アンケート結果の中でお客様用の喫煙所を設けているのが10件あるが、飲食店に絞ったものか。
（事務局3）	飲食店だけでなく、店舗・事業所全体の中で集計したものでクロス集計的なものは実施していない。
（委員1）	喫煙・非喫煙で差が出てくると思うので、クロス集計を使った集計をお願いしたい。

(委員4)	令和3年度から路上喫煙対策を始められて一定の効果はみられてきたと思われるが、ポイ捨て件数に関して地元の許容範囲など伊勢市はどの程度減らすことを考えているのか？
(事務局2)	コロナ禍を経て観光客数の増加に伴い、ポイ捨て数も増えてきており地元も迷惑だと感じている部分もあると思われる。 ポイ捨てを0になるよう減らしていくのが市の役割だと認識している。引き続き周辺自治会や皆様の協力を得ながら減らしていかなければならないと考えている。
(委員2)	伊勢市駅、宇治山田駅のこういった所にポイ捨てがあるのか。例えば、シティプラザ裏辺りで路上駐車ができる場所などはポイ捨てが多いことが資料1で読み取れる。黄色で示された所はたばこだけでなくごみのポイ捨ても多い。
(事務局2)	黄色に示されている伊勢マーケット周辺は以前、夜間のパトロール実施の際、待ち合わせされている方に声をかけた経緯もある。内宮においても参道から外れた路地で休憩されている方が多い傾向がある。 宇治山田駅においては、喫煙所横のベンチで座って椅子の隙間に吸い殻が捨ててあるのが見受けられた。喫煙所があるからポイ捨てが減ると限らないため、マナーに対する強化にも取り組んでいかなければならないと考えている。
(オブ)	啓発の必要性を強く感じる。たばこを生業としている会社なので、考えていくべきことであり、啓発をすることは社会的責任があると自認している。喫煙所周辺での喫煙やポイ捨てがあるのは事実だが、理由は喫煙所が手狭な可能性もある。ルールするのは難しいので、どうマナーを啓発していくか、どのようにして(ポイ捨てしないことを)当然のこととしていくのかがカギになる。また、いわゆる観光地と呼ばれるエリアにおいて、伊勢市は極めてポイ捨ては少なく、それは、参拝客が多いことが理由と思われる。
(委員4)	伊勢市駅周辺には喫煙所が本町のファミリーマートの横だけで駅前には無い。駅前広場には設置できないか？
(事務局2)	土地所有者の考え方や景観の問題もあり、適した場所がないのが

	現状である。 整備にあたっては様々な所で調整もいる。観光で来られた方にとっても駅周辺に喫煙所があった方が利便性はあると認識している。
(委員 2)	土地所有者としても広場に喫煙所の設置について理解は得られないか。
(事務局 2)	受動喫煙対策としても分煙環境を整えていく立場から、非喫煙者との共存が図れるのが理想と考えている。地域性などもあり進めていきにくいのが現状である。
(委員 1)	たばこを吸う方の意見も率直に聞くためにも今後、喫煙所を利用している人を対象にしたアンケートを実施してはどうか。喫煙所を利用しているところから誘導に成功している要因も聞ける。
(事務局 2)	検討させていただきたい。

・事例紹介：路上喫煙禁止区域における喫煙所の設置（京都市）

（日本たばこ産業（株）三重支社 大波多）

京都市では平成 19 年に路上喫煙等の禁止に関する条例を設けて、市内全域の屋外公共での場所（路上、公園など）での喫煙を禁止している。令和 5 年度からは過料を徴収する路上喫煙対策強化区域を新たに指定し対策を強化している。観光客は増加しているが、ポイ捨てによる罰則数は減少している。背景として啓発活動の強化と喫煙所の設置が抑制につながっていると考えられる。公設の喫煙場所が地図表示され、喫煙所の看板や喫煙スペースへの誘導がしっかり示されている。喫煙所の認知が大切だと思われる。ステッカー、広報誌、旅行案内のパンフレットにも QR コードで喫煙所の位置が見つけられる取り組みを行っている。

○路上喫煙禁止区域の今後の取組について

(委員 2)	路上喫煙対策を強化しマナーを求めることも大切だが、観光で伊勢に来られた方がポイ捨てを注意されたことでまさに悪い印象を持たれてしまうのも問題である。観光で来られた方にも、伊勢
--------	--

	に住む方にとっても気持ちよく喫煙できる場所の確保は大切だと感じている。
(委員3)	日頃のパトロールや啓発などの継続した取り組みでポイ捨てが抑えられていると思われる。一方、吸えない区域を広げてしまうとポイ捨てが周辺に広がってしまうのではないかと懸念もある。例えば、喫煙所を利用している方にご遷宮の案内が掲載された携帯灰皿を学生に配ってもらう取り組みをしてみてもどうか。SNSで取り組みをPRするのも効果的だと考えられる。
(委員2)	今後、お木曳行事等で人の往来が増加するにつれてごみのポイ捨ても懸念される。伊勢らしい観光PRをしてみることでポイ捨ての抑制につながるのではないかと。
(オブ)	観光地の喫煙所では喫煙者に対して観光PRを発信している所も多い。内宮宇治橋前にある喫煙所はとて興味があり、神宮の地に溶け込んでいる印象を受ける。観光地はイメージが大切なため、喫煙所に付加価値をつける取り組みも大切だと思われる。
(委員3)	この組織もあるし、今回のお話も踏まえて、駅前広場の民間の土地で喫煙所の設置の可否を相談しにいくのもいいのではないかと。
(事務局6)	一度、土地所有者へ相談をしにいく。
(委員1)	パトロールや啓発の効果はあがっていると思うので、今後はマネーや啓発などのムチの部分だけでなく、PRや特典などアメの部分も必要ではないかと。
(委員2)	一か月平均でもみてポイ捨て本数は少ないと思う。行政だけでなく地元の皆さんの取り組みも抑制につながっていると思われる。
(事務局2)	地元のボランティア清掃や区域周辺の店舗の皆さんのご協力でごみのポイ捨ての抑制につながっていると認識している。今後とも自治会、事業所様のご協力も得ながらきれいな伊勢のまちづくりに取り組んでいきたい。

●その他 特になし